

## 自然体験一転恐怖に

### 浜名湖ボート転覆

#### 「水入って傾いた」 表情こわばる生徒

楽しいはずの自然体験学習が一瞬のうちに暗転した。浜松市北区三ヶ日の浜名湖で18日、カッターボートが転覆し、漕艇体験中の中学生ら20人が湖に投げ出されて女子生徒1人が死亡した事故。一様にこわばった表情の生徒たちが見守る中、県警の救助艇などによる懸命の救助が続けられた。事故当時の現場の天候は雨。風が強く、波が高くてみんな酔っていた」と話す生徒も。悪天候の中のボート体験実施に疑問の声も漏れた。

「ボートの中に水が入ってきて、急にボートが傾いた。あっという間に転覆し、必死に助けを求めた」。転覆したボートに乗り、無事救助された男子生徒はびしょぬれになった頭をぬぐおうともせず、震える声で転覆時の様子を振り返った。

事故が起きたのはカッターボートの体験開始から1時間半以上経った時。救助された別の女子生徒によると、転覆したボートに水が入ってきたため漕ぐのをやめ、救助のモーターボートでえい航していたところ、突然、カッターボートがひっくり返って全員が湖に投げ出されたという。女子生徒は「モーターボートの」引つ張る速度が速かった。カッターボートの傾きがゆっくりとひどくなって、最後にパタッとひっくり返った」と表情をこわばらせた。

別のボートに乗っていた中西恭平さん（12）と鈴木大土さん（12）は『キャー』という声で振り返ったら、ひっくり返ったボートにしがみついている人の姿が見えた。湖面を必死に泳いでいる人もいた」という。風が強く、波も高い状況に、生徒の多くが船酔い状態だったといい、付添いの教職員の「すぐに救助が来る」「頑張れ」と叫ぶ声が飛び交ったという。

事故の様子を目撃した東京都八王子市の遠

藤富美御雄さん（45）夫妻は「まさか、目の前であんな事故が起きるなんて」と驚いた表情。女子生徒が死亡したと聞き「私たちも同じくらい年齢の子どもがいるので、かわいそうで仕方ない」と泣き崩れた。亡くなつた西野花菜さんのクラスメイトの男子生徒は「西野さんは給食の仕事を手伝ったりしてくれて、とても優しい人。なんでこんなことに」と唇をかんだ。

### 悪天候「なぜ出航」

#### 地元漁師ら疑問視

「なぜこんな時に訓練を実施したのか」「しっかりと判断できる人がいなかったのか」。浜名湖で中学生や教諭20人を乗せたボートが転覆した事故を受け、地元の関係者からは、悪天候の中で訓練を決行した判断に疑問の声が上がった。

事故が起きた午後3時半頃、浜名湖周辺は、大雨、洪水、雷、強風、波浪の各注意報が出ていた。関係者によると、「激しい雨が上がった後で、突風が吹き付けていた」という。転覆したボートには、生徒と教諭だけが乗っていた。

浜名漁協の関係者は「南西の風が強く、波は1メートルぐらいあった。水深の浅い浜名湖で1メートルの波があれば、かなりあれた状況と言えるだろう。プロの漁業関係者だったら絶対に出航しない」と言い切る。

県教委によると、警報が発令された場合は、ボート訓練は中止となるが、注意報の場合は施設職員と各学校が協議した上で実施するかどうか判断することになっているという。

浜名湖マリナーの新村社長は「浜名湖は南風が吹くと、ものすごい大きな波になる。本来ならボートは出すべきではなく、しっかりと判断できる人が必要だった」と語り、「モーターボートでけん引されている途中で転覆したのなら」生徒全員を別のボートに乗せ替

え、空っぽにしてけん引するべきだった」と残念がった。

### 「死亡」に保護者悲鳴 豊橋章南中

豊橋市老津町の市立章南中では、テレビなどで転覆事故を知った1年生の保護者らが続々と集まり、学校側に説明を求めた。同校の森下郁夫教頭が数回にわたって事故の経緯を説明し、病院に搬送された生徒の名前を読み上げた。

「生徒1人が亡くなった」との情報が伝わると、保護者が待機している武道場は絶叫に包まれた。悲鳴を上げたままハンカチに目を当て、座り込む姿も見られた。

豊橋市教委は18日夜、バスを手配して野外活動に参加していた生徒を呼び戻す措置を講じた。同校は当初、保護者あてに「全員無事が確認されました。ご安心下さい」とする一斉メールを配信。二転三転する学校側の説明に、保護者の一人は「対応がひどい。とにかく早く子どもの顔を見ないと安心できない」と憤った。

同市教委の加藤正俊教育長は同日深夜、同校で会見し「判断に大きな問題があったと考えている」と陳謝。森下教頭は、細江署で事情聴取を受けている水野克昭校長のコメントとして「行事の責任者、学校の責任者として申し訳なく思う。謝りの言葉以外にございません」と代読した。

【2010年6月19日静岡新聞参照】



### 「突然ひっくり返った」

#### 浜名湖転覆 生徒、ボート内側に

風雨が強まり、白波のたつ浜名湖で18日、中学生たちがのったボートは転覆した。愛知県豊橋市立章南中学校の女子生徒1人が犠牲になった事故。荒天の中で訓練した判断は正しかったのか。救助に過失はなかったのか。転覆事故は、浜名湖の岸辺から100メートルほど沖合で起きた。オールを握るカッター訓練中、荒天で動けなくなった20人乗りのボートを、救助のモーターボートがロープで引航している時だった。

「引つ張る速度が速くなり、オールが流された。ボートはだんだん傾いて水が入ってきて、最後はいきなりひっくり返った」。転覆したボートに乗っていた男子生徒はこう振り返った。

「雨が降っているけどやるよ。波が強くて怖いと思うかもしれないけど、協力してこぎましょう」。訓練を催した青年の家側からは、生徒らにこう説明があったとう。

生徒約90人と、引率の教師5人、インストラクター3人は、ボート4艇に分かれて乗船した。転覆したボートにはインストラクターは乗らず、指導は教師に任されていた。訓練開始から約1時間が過ぎたころ、天候はさらに荒れ、波も高くなっていた。

「風が強くなり、ボートに波が当たって、グラグラと揺れた」。転覆したボートとは別のボートに乗船していた女子生徒は語る。

転覆ボートに乗っていた男子生徒は「あまり揺れるので、気分が悪くなった生徒も4人ぐらいいた」。立ち往生したボートはトランシーバーで救助を求め、沖合で待機。その後湖岸に戻る最中の事故だった。

「団結してカッター訓練をがんばろう」。亡くなった西野さんは訓練の前、生徒を代表してあいさつをした。同級生によると、吹奏楽部でアルトホルンを担当。「優しくて頭がよ

く、大人っぽい感じ」だったという。救助された生徒たちも、首まで水に浸かり、ずぶぬれの状態だった。女子生徒の一人は、同級生にこう語った。

「死にそうだった。自分のことで精いっぱいだった」

乗せたまま引航 「危険」

関係者 「雨強く視界悪かった」

静岡地方気象台によると、浜松市は18日午後3時半すぎに風速6・7メートルとなり、午後4時すぎには最大瞬間風速13・4メートルを記録した。

近くのマリーナで働く男性社員(49)は「浜名湖の北側は、ほかの場所より風が強く、波の集まりやすい場所でもある。子どもたちが出航したのを見て、『雨が強くて視界も悪いこんな日によく出たなあ』と思った。日程を組んでいたから、無理したのではないかと語った。

浜名湖でボートの販売や修理、保管などを行っている「浜名湖ボートクラブカナル」の柴田昌宏代表(48)はこの日、新型ボートのテストをしていたが、昼前から土砂降りとなり、東寄りの風も強まったため、切り上げたとい。転覆直後の午後4時ごろは、風向きは西寄りに変わり、横なぐりの雨に。「エンジンが付き、浮力の大きいボートだったら大丈夫だが、手こぎボートでは今日は危なかった」と話す。

また、波が高い中で人を乗せたボートを引航すると、左右に振られて横波が入るなどしかえって危険だという。

「引く張る船に全員を乗せ、空にしたボートを引く方がいい。人数が多すぎたら、ボートを漂流させたままでピストン輸送して陸に運ぶのが安全だ」と指摘する。

【2010年6月19日朝日新聞参照】



【2010年6月19日朝日新聞参照】

浜名湖

## ボート転覆 中1死亡

豊橋の中学20人乗り

荒天下で体験学習

十八日午後三時半ごろ、浜松市北区三ヶ日町佐久米の浜名湖で、愛知県豊橋市老津町の市立湘南中学校(水野克昭校長)の一年生一八人と教員二人が乗ったカッターボート(全長約七メートル、定員二十人)が転覆、全員投げ出された。地元消防などが救助したが、豊橋市杉山町の西野花菜さん(一二)が搬送先の病院で死亡した。ほかに生徒七人が病院に運ばれ、三人入院したが命に別条はない。浜名湖周辺には昼過ぎから大雨洪水強風波浪雷の各注意報が出されていた。

静岡県警細江署などによると、同校の一年生九十六人は「自然体験学習」で十七日から二泊三日の日程で、浜名湖近くの静岡県立三ヶ日青年の家に滞在しており、事故当時はカッターボートをこぐ訓練中だった。

生徒らは四隻のボートに分かれ、教員五人と指導員三人が分乗。午後二時過ぎ、青年の家南側から湖面へ出た。転覆したボートは出向後、間もなく「生徒たちの船酔いがひどく自力でオールをこげない状態」(静岡県教育委員会)になり同施設の所長ら数人の職員が別の船で救助に向かった。

ボートを岸へけん引していた途中、沖合約



百メートルで何らかの原因で転覆したという。西野さんは転覆したボートの中に取り残され、午後五時五十分ごろ、心拍停止の状態で見つかった。県警は、ボートの訓練やえい航に問題がなかったかなど、業務上過失致傷容疑などを視野に転覆時の状況などを調べている。

県教委によると、同施設では通常、警報が発令された場合はカッター訓練を「中止」、注意報の場合は「学校と協議の上、実施の是非を判断すること」になっていた。注意報が出ていた中での訓練について所長は「出航時は東の風三〜四メートルだった。訓練終了までに天候は大幅に悪化しない」と判断したという。

同署によると、転覆したボートにだけ指導員が乗っておらず、男女一人ずつの教員が同乗していた。全員ライフジャケットを着けていた。県警の船舶や消防の水上ボートが約二時間にわたり救助活動を展開した。

静岡地方気象台によると、浜松市内では午後三時半、一一・二メートルの最大瞬間風速を記録した。三ヶ日町の午後三時半時点での雨量は〇ミリだったが、午前十一時半から四時間では五七・五ミリと強い雨が降った。

【2010年6月19日中日新聞参照】



## 楽しい自然教室 暗転

浜名湖中学生死亡

生徒ら悲鳴、次々湖に

楽しいはずの湖上のボート教室が暗転した。18日、浜名湖で起きた中学生らの乗ったボートの転覆事故。風雨で荒れる湖面に次々と投げ出される子どもたち、助けようとする人たち…。懸命の作業で19人は助けられたが、1人の尊い命は助からなかった。

事故を受けて、安倍徹県教育長は18日夜、県庁で記者会見し、「もう少し協議するなかでの判断が必要だった」と語った。訓練の決行を判断した時は、現場付近は大雨、強風、波浪ほどの注意報が出されていたが、学校側とも話し合って決行を決めたという。

しかし、訓練中に生徒が船酔いのためオールがこげなくなり、連絡を受けた県立三ヶ日青年の家の檀野清司所長らがモーターボートで救助に向かい、ボートにひもを付けて先導する途中でボートが転覆したという。

宿泊していたホテルの窓から転覆の瞬間を目撃したという東京都八王子市、美容師は「4隻のボートのうち、右端のボートがモーターボートに引っ張られていた。ほかのボートからはジェットコースターから聞こえるような『キヤー』という悲鳴が聞こえた。数分後、いきなりカッターボートが転覆して、子どもが湖に投げ出された」と話した。

浜名湖沿岸でボートの貸し出しやイベントの運営などを行っている「浜名湖ボートクラブカナル」の柴田昌宏代表は読売新聞の取材に「18日は午前11時頃まで天気は良かったが、正午過ぎから雨が降り始め、午後1時過ぎには土砂降りになった。風向きも東よりから南西向きに変わった」と話す。浜名湖周辺では、南からの風が吹くと沿岸での波が高くになるといい、事故現場は南からの風が吹くと風下になる場所だったという。柴田代表は「天候がころころ変わるときは十分気を付

けた方がよく、うちに来たお客も午後は釣りに出なかった。大きいモーターボートならともかく、手こぎボートの場合は、よほどの経験を積んだ人以外はボートを出さない方がいい」と話した。

県教委は今年度から、県立三ヶ日青年の家を指定管理者制度の対象とし、「小学館集英社プロダクション」に年間1億1000万円の3年契約で、管理・運営を委託した。県教委によると、正職員8人、非常勤職員6人の計14人がいる。

【2010年6月19日読売新聞参照】

